

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 21 日現在

機関番号：32401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26770253

研究課題名(和文) 近現代にパリ万国博が果たした役割についての実証的研究：万国博組織委員会を中心に

研究課題名(英文) The role of World Expositions in Paris in the modern history: a study of the organizational committees for the Expositions

研究代表者

寺本 敬子 (TERAMOTO, Noriko)

跡見学園女子大学・文学部・助教

研究者番号：80636879

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：パリ万国博覧会は、現在までに計6回開催されたが、この内5回は全て19世紀後半に開催された。本研究は、19世紀パリ万国博(1855年、1867年、1878年、1889年、1900年)を対象に、各万国博の開催の動因、またその変容の過程を明らかにすることを目的とした。特に分析の対象としたのは、パリ万国博の運営を担った組織委員会の活動であり、彼等がいかなる開催方針を定め、それを博覧会場でどのように実践していったのかを、議事録・報告書等を通じて分析した。本研究を通じ、フランスにおいて19世紀という時代が有した万国博への特殊な要請、その政治的・経済的・社会的背景および特徴の解明を目指した。

研究成果の概要(英文)：Of all six World Expositions of Paris, this research focused on the five of those held in the second half of nineteenth century (1855, 1867, 1878, 1889, 1900). I analyzed the minutes, reports and other materials of the respective organizational committees for the Expositions to examine their respective objectives, motives, plannings and implementations, as well as how these changed in time. This research is aimed to elucidate the peculiar factors that affected these World Expositions, in particular the political, economic and social backgrounds of France in the 19th century.

研究分野：西洋史

キーワード：フランス史 パリ万国博覧会

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の開始当初の背景は以下のとおりである。

万国博覧会は、現在も継続的に開催されている国際的催しであるが、その土台を築いたのはパリ万国博に他ならない。パリ万国博は、現在までに計 6 回(1855 年、1867 年、1878 年、1889 年、1900 年、1937 年)開催されたが、このように同じ都市で、複数回にわたって開催された例は他にない。そればかりでなく、全 6 回のパリ万国博の内 5 回は全て 19 世紀後半に開催された。これに対し 20 世紀に入ると、パリ万国博の計画は幾度か持ち上がるものの、1937 年の開催を除いて、いずれも実現には至らなかった。

こうした経緯からパリ万国博は、とりわけ「19 世紀後半」のフランスにおいて特有の歴史事象であったと言えることができる。しかしその一方で、これらのパリ万国博の運営形態は、20 世紀以降の万国博の範例となった。1928 年に設立された博覧会国際事務局(BIE)において、フランスは現在も中心的役割を担い続けている。

これまで研究代表者は、全 6 回のパリ万国博のうち、日本が参加した 4 回の万国博(1867 年、1878 年、1889 年、1900 年)を対象に、フランスと日本の相互作用のなかで、いかなる「日本」像が形成されたのか、その形成過程および変遷を明らかにすることを目的とし、研究を進めてきた。パリ万国博は「日本」のイメージをフランス社会に広め、1870 年代には「ジャポニスム」と呼ばれる文化現象が生まれるなど、日仏間の交流を促進させる重要な媒体として機能した。パリ万国博の開催国(フランス)、参加国(日本)、観衆といった三者の複合的な相互作用に着目し、日仏交流を通じた「日本」像の形成過程を明らかにしてきた。

以上の研究を通じ、研究代表者はパリ万国博自体を問い直し、その歴史的意義を包括的に明らかにする必要性を感じた。19 世紀後半のフランスでいかなる動因によってこれらの催事が繰り返し開かれたのか、その特殊性と範例性はどこに存するのかを検討することによって、近現代史においてパリ万国博が果たした役割を明らかにすることができると思われた。

万国博に関する先行研究は、万国博の全体的特徴を整理した通史的研究(Ory 1982; Greenhalgh 1988; Aimone et Olmo 1993; 吉見 1992)、植民地表象(Leprun 1986)、大衆消費社会(Williams 1982)、美術(Mainardi 1987)等、個別テーマに特化した研究がある。これらの研究によって、万国博の特徴として概ね「科学技術の発展」、「帝国主義の祭典」、「植民地表象」、「消費社会」、「美術・建築」が挙げられてきた。

しかし、これらは何故 19 世紀後半にパリ万国博が繰り返し開催されたのかというその特殊性を十分に説明するものではない。こう

した状況をふまえ、本研究は、歴史的アプローチに基づき、パリ万国博を主導した「組織委員会」の動向を分析することで、19 世紀後半のパリ万国博の歴史的意義、その特殊性と範例性を明らかにすることを目的とした。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、19 世紀後半のフランスにおいて継続的に開催された計 5 回のパリ万国博(1855 年、1867 年、1878 年、1889 年、1900 年)を対象に、各万国博の開催の動因、またその変容の過程を明らかにすることにある。特に分析の対象としたのは、パリ万国博の運営を担った組織委員会の活動であり、彼等がいかなる開催方針を定め、それを博覧会場でどのように実践していったのかを、議事録・報告書等を通じて分析する。

以上のように、19 世紀パリ万国博と組織委員会に特化した分析を行うことで、フランスにおいて 19 世紀という時代が有した万国博への特殊な要請、その政治的・経済的・社会的背景および特徴の解明を目指した。

## 3. 研究の方法

上記の研究目的を達成するため、研究方法としては、歴史的アプローチに基づき、組織委員会の報告書、議事録、書簡等の史料調査を行い、各パリ万国博の組織委員会の実態を分析した。特に組織委員会による各万国博の開催の方針を明らかにし、それらが博覧会場でどのように実践されていったのかを検討した。

平成 26 年度は「第二帝政とパリ万国博」、平成 27 年度は「第三共和制とパリ万国博」を主な調査・研究対象とし、平成 28 年度には研究成果の総括を目指した。

なお、本研究を進行するにあたり、フランスではパリ第一大学の 19 世紀史研究センター(パリ)、国内では国際日本文化研究センター(京都府)の共同研究会「万国博覧会と人間の歴史」(研究代表者:佐野真由子)、基盤研究 C「近代フランスにおける社会構想の複数性と「革命」— 個人 を起点として」(研究代表者:高橋暁生)において、関連分野の研究者と継続的に意見交換等を行った。

## 4. 研究成果

本研究は、平成 26 年度、27 年度、28 年度の 3 年間にわたり、主に以下の 2 点について調査・研究を実施し、一定の研究成果を得た。

### (1) パリ万国博の組織委員会の実態の解明

組織委員会は、それぞれのパリ万国博においてその都度新しく組織され、開催の方針、内容(展示構成・出品分類等)、さらに諸外国への参加要請・交渉、閉会後の報告書の編纂も含めて、パリ万国博にかかわる全ての活動を主導した。ただし、組織委員会の構成員を見ると、確かにパリ万国博ごとに新しく組

織されるものの、主として理工科学校出身のテクノクラートで構成され、第二帝政から第三共和政への政体の変化にもかかわらず、その組織形態には一貫性ないし継続性が見られることが確認された。本研究では、それぞれのパリ万国博の組織委員会の構成員を整理し、いかなる組織形態であったのかを分析した。

## (2) パリ万国博の開催方針とその実践

本研究は、組織委員会の編纂による報告書・議事録の分析を通じ、下記のように19世紀後半の政治・経済・社会の文脈の中に各パリ万国博の主要な論点を設定し、開催の経緯、方針、その実践の内容を分析した。

### 第二帝政とパリ万国博：貿易の自由化

第二帝政期のフランスは、1855年と1867年にパリ万国博を開催した。その開催の背景として重視されるのは、保護貿易から自由貿易への貿易体制の変化である。18世紀末からフランスで開催されてきた国内規模の産業博から、19世紀半ばに国際規模の万国博に展開した経緯を、イギリスとの貿易関係を含め、主にその経済的側面から分析した。

### 第三共和政とパリ万国博：国民国家の統一

第三共和政期のフランスは、1878年、1889年、1900年にパリ万国博を開催した。その開催の背景として重視されるのは、国民国家の統一を目指す政治的意図の増大である。1878年パリ万国博では、普仏戦争からの復興、第三共和政の成立を内外にアピールすることに重点が置かれ、1889年パリ万国博では革命100周年を記念し、フランスにとって「国民国家」形成の象徴となる演出に重点が置かれた。1900年パリ万国博は、19世紀の万国博の集大成として開催された。

第三共和政期における組織委員会によるパリ万国博の運営は、王党派と共和派の政治的対立のために少なからぬ影響を受け続けたが、そうした中で、組織委員会はいかなるスタンスに基づいて万国博の準備を進め、万国博を構成したかを分析した。

本研究の年度別の研究成果は下記のとおりである。

### (1) 平成26年度の研究成果

平成26年度は「第二帝政期とパリ万国博」を研究対象に、1855年・1867年のパリ万国博を対象とした史料調査を行った。二つのパリ万国博を対象に、先行研究を整理し、組織委員会にかかわる議事録や報告書等の史料収集・調査に重点を置いた。これらの作業は、フランス（パリ）の各文書館・図書館で実施するとともに、国内で継続的に史料整理・分析を行った。

当該年度は、上記の研究活動をもとに、特にパリ万国博をめぐるフランスと諸外国の関係に焦点を当て、主に次の三つの研究成果を公表した。

第一に1867年パリ万国博とジャポニスムの誕生について、論集に発表した。日本が「流

行の先端」に至った背景には、産業芸術振興など、1867年パリ万国博の開催動機となった第二帝政期フランスの政府および産業界の要請が大きく関わっていたことを示した。

第二に1867年パリ万国博を契機に発展したフランスと日本の「個人交流」の解明を目的とした研究を発表した。特に日仏間で交わされたフランス語書簡を対象に、研究代表者のこれまでの調査・分析を総括し、国内学会で口頭発表を行うとともに、論文にまとめた。

そして第三に1878年パリ万国博を対象に、フランス組織委員会と日本事務官長（前田正名）の交渉内容・過程を整理し、国内学会において口頭発表を行った。

### (2) 平成27年度の研究成果

平成27年度は「第三共和政とパリ万国博」を題材に、主に1878年・1889年・1900年に開催されたパリ万国博について調査研究を実施した。史料調査については、平成26年度と同様に、一定期間の在外研究をパリ（フランス国立文書館等）で行った。またイタリアで開催されたミラノ万国博を視察し、ミラノ万国博公社のインタビュー等を行った。国内では、国際日本文化研究センター（京都）の共同研究会に継続的に参加するとともに、国際研究集会「万国博覧会と人間の歴史」に出席し、総合討論での総括コメンテーターを務めた。

当該年度の研究成果としては、1878年パリ万国博を対象とした論文を発表した。この論文では、平成26年度の口頭発表の内容に基づき、1878年パリ万国博で日本事務官長を務めた前田正名の役割に焦点を当て、フランス側の組織委員会との交流やジャポニスムとのかかわりについて明らかにした。

この他、口頭発表を2回行った。第一に1867年パリ万国博に参加した徳川昭武と渋沢栄一について発表し、第二に1867年・1878年パリ万国博とジャポニスムについて発表した。

### (3) 平成28年度の研究成果

平成28年度は、平成26・27年度の調査研究を基にその総括を目指した。

第一に、単行本『パリ万国博覧会とジャポニスムの誕生』（思文閣出版）を発表した。本書では、とりわけ1867年と1878年のパリ万国博と、日本の参加について論じた。平成26年度以降の研究成果として、フランスの第二帝政期にパリ万国博が開催された歴史的経緯、第三共和政期にパリ万国博が継続的に開催された政治的・経済的背景について、組織委員会の分析を取り入れて論じた。本書をまとめるにあたって、夏期は一定期間の在外研究をフランス（パリ）で実施した。

また口頭発表としては、11月に韓国のソウル国立大学環境大学院（ソウル）の主催で開催された国際シンポジウム「万国博覧会の場」に参加し、19世紀後半のパリ万国博における日本参加の全体像を示し、他のアジア諸国の展示内容との比較をまじえて論じた。ま

た、革命 100 周年として開催された 1889 年パリ万国博にかかわる本研究成果の一部については、研究分担者として参加している基盤研究 C「近代フランスにおける社会構想の複数性と「革命」」の研究会（徳島）で 3 月に口頭発表した。ここでは、1889 年・1900 年パリ万国博の組織委員会において委員長を務めたアルフレッド・ピカールが編纂した公式報告書について論じた。

この他、平成 29 年 3 月から渋沢史料館（東京）で開催されている企画展「渋沢栄一渡仏 150 年 渋沢栄一、パリ万国博覧会へ行く」の展示カタログの概説として「1867 年パリ万博と日本」を寄稿し、4 月に同内容で講演を行った。

### (3) 今後の展望

本研究では、19 世紀パリ万国博と組織委員会に特化した分析を行うことで、フランスにおいて 19 世紀という時代が有した万国博への特殊な要請、その政治的・経済的・社会的背景および特徴の解明を目指した。研究期間に、組織委員会の関係資料の調査・分析をもとに、19 世紀パリ万国博の解明を進めた。今後は、20 世紀に開催された 1937 年パリ万国博を含めて、全 6 回のパリ万国博と組織委員会について総括し、単行本のかたちでまとめたいと考えている。

## 5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

寺本敬子「1867 年パリ万博と日本」『渋沢栄一渡仏 150 年 渋沢栄一、パリ万国博覧会へ行く』2017 年、130-133 頁（査読無）

寺本敬子「初期日仏交流における人的ネットワーク——徳川昭武宛のフランス語書簡を中心に——」『跡見学園女子大学人文学フォーラム』第 13 号、2015 年、53-73 頁（査読無）

〔学会発表〕(計 8 件)

寺本敬子「1867 年パリ万国博覧会と日本」企画展「渋沢栄一滞仏 150 年 渋沢栄一、パリ万国博覧会へ行く」関連講演会（招待講演）2017 年 4 月 15 日、渋沢史料館（東京都・北区）

寺本敬子「パリ万国博覧会と革命——共和政をめぐる——」基盤研究 C「近代フランスにおける社会構想の複数性と「革命」」共同研究会、2017 年 3 月 21 日、徳島大学（徳島県・徳島市）

Noriko TERAMOTO, "Struggle of a non-European country in the World Fairs : the case of Japan", International Symposium "Expo Landscape" (国際シンポジウム) 2016 年 11 月 4 日, Seoul National University (韓国・ソウル)

寺本敬子、総合討論コメンテーター (General discussions, Wrap-up commentator) 国際研究集会「万国博覧会と人間の歴史 (International Symposium, "Expo and Human history")」2015 年 12 月 19 日、国際日本文化研究センター（京都府・京都市）

寺本敬子「1867 年・1878 年パリ万博とジャポニズム」スペイン・ラテンアメリカ美術史研究会、2015 年 7 月 19 日、国立西洋美術館講堂（東京都・台東区）

寺本敬子「幕末・明治におけるパリの留学生——徳川昭武・渋沢栄一の足跡を求めて——」平成 27 年度跡見学園女子大学春期公開講座、2015 年 6 月 6 日、跡見学園女子大学（東京都・文京区）

寺本敬子「1878 年パリ万博における前田正名とフランス組織委員会」上智大学史学会第 64 回大会、2014 年 11 月 16 日、上智大学（東京都・千代田区）

寺本敬子「初期日仏交流における人的ネットワークの形成——徳川昭武に宛てたマルグリ中佐の書簡を中心に——」日本仏学史学会第 38 回全国大会、2014 年 6 月 28 日、日仏会館（東京都・渋谷区）

〔図書〕(計 3 件)

寺本敬子『パリ万国博覧会とジャポニズムの誕生』思文閣出版、2017 年、370 頁

寺本敬子「1878 年パリ万博における前田正名の役割——ジャポニズム流行の立役者——」佐野真由子編『万国博覧会と人間の歴史』思文閣出版、2015 年、758 頁（73-102 頁）

寺本敬子「1867 年パリ万国博覧会とジャポニズム」喜多崎親編『パリ——19 世紀の首都——』（シリーズ西洋近代の都市と芸術）2014 年、竹林舎、512 頁（108-128 頁）

## 6 . 研究組織

(1) 研究代表者

寺本敬子 (TERAMOTO, Noriko)  
跡見学園女子大学・文学部・助教  
研究者番号：80636879